資源処理工学研究室ホームページ　教員自己 PR

氏名　柴山　敦（Atsushi SHIBAYAMA）
連絡先（メールアドレス）　sibayama[ ]gipc.akita-u.ac.jp　　[　]内には@を入れてください。
出身地　福岡県

学歴　平成 6 年　九州大学工学部資源工学科　卒業
平成 8 年　九州大学大学院工学研究科　資源工学専攻　修士課程修了　修士（工学）
平成 11 年　九州大学大学院工学研究科　資源工学専攻　博士課程修了　博士（工学）

職歴　平成 11 年　（株）クボタ　リサイクルプラント技術部
平成 12 年　秋田大学工学資源学部　環境物質工学科　助手
平成 15 年　秋田大学工学資源学部　環境物質工学科　助教授
平成 21 年　秋田大学工学資源学部　環境応用化学科　教授
平成 26 年　秋田大学国際資源学部　資源開発環境コース　教授

専門　資源処理・リサイクル工学（資源処理工学研究室を主宰）

担当科目（学部の講義科目のみ）　基礎化学Ⅰ、資源処理工学、リサイクル・廃水処理工学

主な学内業務等
秋田大学評議員、秋田大学大学院国際資源学研究科 副研究科長（副学部長）
それ以外にも平成 23～27 年度　秋田大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー長
平成 24～26 年度　秋田大学特別貢献教授　　など

研究活動および業績等
主に資源の有効利用および鉱物処理を専門とし、①粉砕と物理化学反応に基づく鉱物資源などへの各種分離法に関する研究、②資源リサイクリングと廃棄物処理・再資源化に関する研究、③湿式分離技術を利用した金属の濃縮とリサイクル、廃水処理、④機能性流体の開発と物性評価、に関する研究開発を進めてきました。平成 29 年度までの主な業績は以下の通りです。
学術論文 115 編以上
特許 30 件以上（出願中含）
国際会議報告 100 編以上
その他資料・論説等 11 編、著書等 6 件（分担執筆、訳本含む）など

外部資金の獲得など
産業技術研究開発委託費（経済産業省）、環境研究総合推進補助金、科学研究費補助金 基盤研究（B）2 件など多くの公的研究費を獲得したほか、関係機関および民間企業等からの受託研究、研究助成事業、人材育成事業などを代表者として多数実施しています。

主な学会活動等
資源・素材学会（代議員）、環境資源工学会（理事）、廃棄物資源循環学会（東北支部幹事）、日本素材物性学会（会長）、化学工学会、粉体工学会、日本水環境学会、自動車技術会、日本希土類学会、TMS（The Minerals, Metals and Materials Society アメリカ鉱物素材学会）、SME（Society for Mining, Metallurgy & Exploration アメリカ鉱業協会）　各正会員

受賞等

・平成 16 年 6 月 日本素材物性学会 山崎賞（共著論文）
・平成 20 年 5 月 インテリジェント・コスモス学術振興財団　インテリジェント・コスモス奨励賞
・平成 21 年 3 月　資源・素材学会 奨励賞
・平成 27 年度　環境資源工学会 論文賞（共著論文）
・平成 29 年 3 月　資源・素材学会 論文賞（共著論文）
その他、ポスター発表賞など多数。指導した学生の受賞も多数あり。

公的機関の委員等および社会活動など

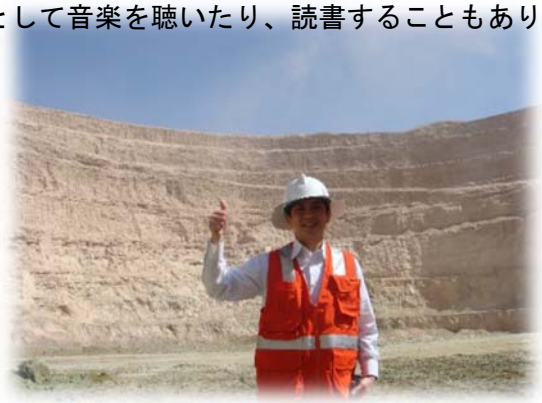
・日本学術会議 連携会員（平成23年度～）
・東京大学生産技術研究所 客員教授
　（サステイナブル材料国際研究センターおよび持続型エネルギー・材料統合研究センター）
・東京大学、九州大学での非常勤講師など外部機関での講師・講演多数
・秋田市「秋田市廃棄物減量等推進審議会」会長（平成22年度～）
・経済産業省・研究開発事業審査委員および行政関連機関等の委員を複数務めるほか、秋田県の各種事業委員などを多数歴任

教員からの一言

鉱物資源の生産技術やリサイクルにイノベーションを芽吹かせるべく、資源処理とリサイクル技術の高度化について研究を進めています。趣味と実益を兼ね、海外の鉱山や資源開発の最前線を調べ歩くことが好きなのですが、最近は時間が取れず、機会がめっきり減ったことが悩みの種です。

趣味･息抜きなど

スキー、家族旅行、軽めのジョギング（特に子どもと一緒に走るのが好きです）
ちなみに昔はバイクが好きでした。
息抜きとして音楽を聴いたり、読書することもあります。



海外での鉱山調査（上２枚）

大学３年生の時の夏期実習（オーストラリアの鉄鉱石鉱山にて６週間の実習、中央）